

こどもが迎えられた経緯（真実告知）について ～支援者の行うサポート～

家庭裁判所においてパーマネンシーを移植するための正当な審査を経て 法的にも家族関係的にも1つの家族となった養子家庭では パーマネンシーを移植しなければならなかった理由について あるいは子供が別の家庭に迎えられることになった経緯について子供に説明することが必要になります。ところが養親さんは子供が迎えられた経緯について話をするにととても不安を感じたり恐れを抱いたりしていることがあります。

では養親さんはいったい何に不安を感じたり恐れを抱いたりしているのでしょうか。養親さんは子供が家庭に迎えられた経緯についての話をすると

- 自分と子供との間に遺伝的關係性がないことが分かってしまう
- 遺伝的關係性がないことが伝わることにより 自分を親とみなしてくれなくなるのではないかという不安
- 親とみなしてくれなくなることにより 子供が離れてしまうのではないか
- 遺伝的關係性がないことが伝わることにより 子供が 『 自分は独りぼっちなんだ 捨てられてしまったんだ 』と悲しませてしまうのではないか そしてそれを自分は受け止めることができるのだろうか 一緒に泣いて抱きしめてあげることができるだろうか という不安を抱いています。これを理解せずに 義務だからお約束だからと こどもが迎えられた経緯（真実告知）について義務的に話をするよう押し付けても養親さんは理解してくれませんか協力してくれませんか。養親さんが自ら工夫しながら 子供が家庭に迎えられた経緯についてお話をするには 手助けが必要です。

【 養親さんの恐れを言い換えましょう 】

養親さんの思考にはどうしても親＝血縁という価値観がこびりついています。しかし実際には親＝子供を守ってくれる大人であり 親＝子供の幸せや喜びを生き甲斐としてくれる大人です。そしてたまたま血縁関係のある大人が親であることが多いので親＝血縁とみなされているだけです。言い換えると 虐待をする大人＝子供を守らない大人 虐待をする大人＝子供の幸せを生き甲斐としない大人であり これは親ではありません。血縁はこのように親である条件とはなりません。これは重要な定義です。ですが養親さんにはこの重要な定義についてほとんど理解していません。血縁なんて全く意味がないのです。親の条件ですらないのです。これを強調して伝えることにより安心されたり親というものについて理解される方もおられます。そしてワークではさらに一歩進んでこれを踏まえたうえでの言い換えを行います。『 皆さん（養親さん）は 本当のお父さんとお母さんですよ 』と

【 お父さんとお母さん（養親さん）は 本当のお父さんとお母さんです 】

『 ひょっとしたら皆さん（養親さん）は自分のことを親ではないと勘違いをされているかもしれませんが それは間違いです。まぎれもなく皆さんこそ本当の親です。この子を全身全霊で守りぬく本当の親です。間違いありません。皆さんはこの子を愛しぬきこの子の幸せを願う本当の親です。胸を張ってください。自信を持ってください。そもそも養親という名称も不適當です。両親です。本当の親です』こう伝えてください。

『そして本当の親とは別に 1 番目の親 あるいは 別の呼び名の親 別の場所に住んでいる親がいるだけです。それだけです』こう付け加えてください。

【 別の親とは何か 】

別の親とは何ですかと聞かれたら 例えばですが 『〇〇県に住んでいる〇〇の母さんでもいいですよ』と提案してください。感覚としては養親さんにもそれぞれの祖父母がいるように 子どもにも 『〇〇に住んでいる〇〇の母さん』 がいるみたいな そんな感覚でお話してください。あるいは『1 番目のお母さん』 でもいいです。あるいは『〇〇のおっかちゃん』 でもいいです。小さい子には『ポンポン (おなかのことです) のお母さん』でもいいです。養親さんが話しやすい使いやすい呼び方をしてあげてください。

- 親とは愛情の繋がりのある大人のことです 遺伝的繋がりではありません。皆さんは本当の親です。間違いありません。自信もって本当の親だと答えてください。そして あなた (子供) がやってきてとっても嬉しかった お父さんとお母さんは あなたがやってくることを心待ちにしていたんだよと 子供を抱きしめて 堂々と答えてください。
大切なのはこれから一緒に創り上げてゆくパーマネンシーについて両親がそれを肯定できることです。望まれて迎え入れられたことを伝えられることです。そしてそれは両親が心から待ち望んだ結果であることを子供に伝えることです。
- 注意すべき点は 養親さんに『本当の親がいる』と言わせないことです。養親さんとは別に本当の親がいるという表現をすると 『養親さんは偽物の親』ということになります。子供も迷います。この意味においては『真実告知』という表現も養親さんの誤解を招きます。養親さんが親であることは真実です。真実告知という表現の方が誤りです。正確には『子供が迎えられた経緯についてのお話』と表現する方が誤解を招かない適切な表現だと思います
- 『子供が迎えられた経緯についてのお話』を行う前段階として重要な点は養親さんの不安を払拭させることです。養親さんが本当の親であると意識させ こびりついた思い込みを解きほぐし 自分自身を肯定することが重要です。これができれば自己肯定感も損なわれず 引け目を感じることもありません。そして関係性はちゃんと伝えられています。

【 伝え方のデザイン 】

子供が家庭に迎えられた経緯についてのお話には以下のコンテンツが含まれています

- ①養親が本当の親であるということ
- ②子供がやってきたことがとても嬉しく心から待ち望んでいたこと
- ③子供のことが大好きで心の底から愛しているということ
- ④子供には家庭に迎えられる前の歴史があるということ

①②③は子供の愛着形成とパーマネンシーの醸成に必要なプロセスです。④は子供の歴史についてのお話でありアイデンティティの形成に必要なプロセスです。①②③は幼少期に必要な最初のプロセスであり ④は子供が理解できるようになったら必要とされる 理解を必要とするプロセスです。養親さんを見ていると どうやら④のみを説明することが重要と考えているようです。④はルーツ

についての話であり ①②③が確立してから 子供の成長に合わせて段階的に話をするものと考えています。

【 子供と養親さんの関係性についてのお話 】

養親さんが本当の親であるということ そして養親さんとは別に親がいること これだけをまず最初に子供に伝えます。これだけで最初は充分です。ところが具体的にどう伝えていいのかわかりませんと言う質問をよくされることがあります。そこで実際に私が説明しているお話について 実例を交えてお話しすることにいたしましょう。

みなさんかしこまって 正座してお話ししようと考えていませんか？ そんなに緊張しなくていいですよ リラックスした時にゆったりとお話しするのでいいですよ。お風呂の中で アヒルのお人形さんと遊びながらでもいいんです。

お風呂の中で 『 このぷか～と浮いているあひるさんは お母さんあひるだよ があがあ 』
そしてしばらくあひるさんで遊びます。そして 子供に話してもいいなと思ったら 『 ○○ちゃんには お母さんあひるもいるけど 別のお母さんあひるもいるんだよ があがあ 』 『 ○○ちゃんには お母さんあひるが二人もいるんだって～ お得だね～ があがあ 』 とお話ししてみます。そして 『 でもどのお母さんあひるさんも みんな○○ちゃんのが大好きなんだよ～ぎゅう～ 』 と大好きだよということを伝えながら 別の親もいることを伝えただけでもいいのです。

【 お話トレーニングについて 】

養親サロンや講習会あるいはセミナーとしてお話トレーニングを企画します。子供さんが大きい場合にはあらかじめ子供さんと別れて集まって（あるいは預かって）もらい 親だけで勉強会を開催してもかまいません。

まず最初に勉強会を開催します。そして伝え方についての勉強と説明が終わったら次はシュミレーションに移ります。子供役・親役・観察者に分かれて自分の状況に合わせたお話をさせていただきます。それぞれのお話が終わったら役を交代してすべてのパートをやってもらいます。子供役からの質問もあるでしょう。全てが終わったらみんなで感想を持ちより それぞれどう感じたか どう考えたか シェアしてもらいます。立場が変わると受ける印象も考えも変わります。役になりきって演じると見えてくるものもあります。養親さんの育成にはこのシェアがとても役立ちます。

【 練習の有用性 】

ほとんどの養親さんが何の講習も受けずに何のシュミレーションもせずに手探りで真実告知しているのが実情です。講習会で勉強しさらにシュミレーションも行いお互いに練習しておくことが重要です。さらに他人のお話を見ることにより参考になるものもありますし 失敗例も見ることができます。しかも練習であればいくらかでも失敗することができます。わからなければ質問することもできます。何度も練習を繰り返し自信がつくまでやり直すことができます。あるいは実際にお話をした後の感想について実体験をシェアしてもらおうとさらに役立ちます。夫婦で参加するのもいいでしょう。

【 不安の著しい養親さんについて 】

養親さんはほとんどが不妊症のご夫婦です。不妊症であることと養育することは全く別次元のことです。まったく関係ありません。けれどもどうしても心のどこかに『私は妊娠しなかった 私は妊娠できなかった 私は親として失格だ』という考えがぬぐい切れずこびりついていることがあります。養親さんが負い目や引け目を持つ必要は全くありません。けれども心のどこかに『自分が妊娠しなかったことを知られたくない。隠し通したい。妊娠しなかったことに触れてほしくない』そんな思いがあります。そもそも妊娠しないことは人間が生物である限り ある一定の確率で必ず発生する自然現象です。まったく責められる筋合いのないことです。そもそも引け目を感じる必要もなく 負い目を感じる必要も全くありません。この考えに折り合いがつき 次に進んだ夫婦が養親さんとなります。しかしどうしても中には妊娠しなかった傷を背負ったままのご夫婦がおられます。このようなご夫婦の場合お話しすることについて非常に強い抵抗を感じます。このような背景を抱えたままのご夫婦の場合 お話トレーニングは後回しにします。それよりもまずは自分の傷を癒すこと 自分がどれだけ苦しんだかを吐き出すこと そしてそれを伝えてもいいんだよと許可を与えてあげること これを優先させます。

養親さんは喪失に脆弱です。『自分は子供ができなかった。そしてまた失うのではないか』そんな不安を抱えています。喪失によるグリーフ（悲嘆）を抱えています。お話トレーニングが苦しくなる時はグリーフケアを優先させます。これができないとその先のルーツ探しには進めません。早い時期に手を打ちます。でもケアすればいいだけなのです。ケアすれば心が軽くなれるのです。

【 歴史の長い養親サロンでの弊害 】

お話トレーニングを開催するにあたり 歴史のある養親サロンでは古い養親さんが障壁となる場合があります。『私は真実告知しなくても大丈夫だった。だから真実告知なんて必要ない。私の目の黒いうちは真実告知なんて絶対にさせないからね』など お話トレーニングについて拒絶される養親さんがおられます。こんな場合 お話することが困難なサロンではトレーニングを開催しません。希望者だけで勉強会を開催して 希望者だけでトレーニングを実施します。そしてそれは新しいサロンの立ち上げに繋がります。そして新しい人は新しいサロンに移りましょう。

児童相談所の職員さんとしてはこのような養親さんを見かけたらグリーフケアを進めてください。あるいはカウンセリングでもいいです。この養親さんも苦しかったのです。心の荷を降ろしてもいいのです。その当時にはそんな声をかけてくれる人すらいなかったのです。

【 いつごろから伝えるのか 】

できるだけ幼いうちからお話をします。お話は3歳までには始めておくようにしましょう。それ以前からお話を始めてもまったく問題ありません。あまりよく理解できない年齢であれば 間違ってもしれっと訂正できます。あとから言い直しても全然問題ありません。幼い子供の時ほど 親は絶対的な存在です。そんな時期であればどぎまぎしながらしどろもどろにお話しても 全部受け取ってくれます。それでもなお不安であれば 寝付いたときにおはなししてください。だっこしながら寝付いたときに話しかけます。睡眠下でも何となくでも伝わります。まずはそこから始めましょう。

【 どの年齢でも同じ伝え方をするのか 】

その年齢なりの伝え方で構いません。傾向として幼児では両親が待ち望んでいたこと両親が愛し

ていること子供がやってきてとても嬉しかったこと そして別に両親がいることを話します。

4歳以降は子供が家庭に迎え入れられる前の歴史について その子の理解と受け入れ具合を見ながらのお話になります。ですが基本にあるのは 『 あなたがやってきて私達はとても嬉しい。あなたを家族に迎えることは私達が心の底から望んだこと。そしてあなたは私たちの宝物。あなたのことが大好き。心の底からあなたを愛しているということ 』 です。

【 Life story book について 】

子供がやってきた経緯について 両親がどれだけ待ち望んでいたか 両親がどれだけ嬉しかったか 両親がどれだけ愛しているか 写真とともにメッセージを張り付けた絵本を作成します。

Life story book は Life story work を絵本としたものです。そして表向きは子供に宛てた絵本ですが 本質は 『 両親からのカミングアウト 』 です。

【 お話しする主な目的とは 】

事情を全く知らない遠い親戚や授業による予期せぬカミングアウト攻撃から子供を守るためです。あるいはいじめっ子からの 『 お前両親と血が繋がってないんだってな 』 という襲撃から子供を自衛させるためです 『 ああ しつているよ 』 と答えられればそれで終わります。そのためにもお話は3歳までには始めておきましょう

【 一度お話ししたらお終いなのか 】

しつこく言う必要はありません。折に触れ年齢を変えて何回かお話しするようにします。

【 どんな伝え方をするのか 】

物事が分かるような年齢になると伝え方にも工夫が必要です。けれども情報だけを何の工夫もなく伝えることが目的ではありません。(事実として入手している)情報ですら全体から見れば一つの側面です。しかも同じ情報(事実)でも母親から見たら別の物語になります。目的はその子供独自の物語(ナラティブストーリー)を創ることです。何の工夫もない情報を伝えることではありません。

大事なことは子供に否定的な内容であっても肯定できる部分を伝えること。ネガティブな内容でもポジティブに言い換えること。生母さんが踏ん張ったところを伝えること。生母さんが愛していたことを伝えること。生母さんの尊敬できるところを伝えること。生母さんの苦境を伝え 生母さんが苦境から自分を犠牲にして子供を救い出してくれたこと。生母さんの尊厳を守ること。敬意を払うこと。

話をする前には生母さんの経緯を追体験する必要があります。苦しかったところ 伝えてほしくないところを自分が生母さんだったと仮定して 自分の話にする必要があります。そして自分(生母さん)だったらこう話してほしい。こう話してくれたら自分(生母さん)の名誉と尊厳が守られる。そんな話を創ってもいいです。あるいは180度ひっくり返して素敵なお話に仕立ててもいいです。事実に基づかなくてもかまいません。

あなた(子供)と会えなくて悲しい。でもあなた(子供)と会えることを励みにして頑張る。私(生母)はあなた(子供)の成長を心持にしている。立派に成長して大人になったら会いに来てね。私はその日を心待ちにしているから。

伝え方については小説(フィクション)を参考にしてもいいでしょう。ある程度成長した子供を

抱える養親さんだけで集まって勉強会をしてもいいでしょう。あるいはカウンセラーさん相手に話をしてもいいでしょう。あるいはカウンセラーさんにお手本を見せてもらってもいいでしょう。事実には必ずしも立脚する必要はありません。

【 生母さんのことを否定的に伝えてはならない 】

生母さんのことについて絶対にネガティブな伝え方をしてはいけません。なぜなら生母さんのことをネガティブに伝えれば伝えるほど そのネガティブな生母さんから生まれた子供はネガティブだと伝わります。そして子供には養親さんは生母さんのことも自分のこともをネガティブと考えているんだと伝わります。そして自分は養親さんに愛されていない大切にされていないと伝わります。絶対に生母さんのことを否定してはなりません。否定することはその子供も否定することになります。

【 質問されたらどう答えるのか 】

質問されるようになったら 質問に答えることがお話の主題になってきます。もちろん質問の内容について正確に答える必要はありません。その年齢なりにかみ砕いて説明します。あるいはその子にふさわしい物語に創り変えてもいいです。傷つけるのが目的ではありません。その子なりの物語にできればいいのです。状況によっては物語を創ることもあります。

質問に答えられないときは 待ってもらったり 今度聞いてみるねと回答を保留してもらいます。答えを保留にしたり待機してもらうことに躊躇する必要はありません。子供が苦しまないように受け取れるような話をするためには工夫が必要です。困ったときには遠慮なく支援者に相談しましょう。あるいは養親さんが答えるには荷が重すぎる場合には支援者と一緒に考えてもらい あるいは支援者から答えてもらうようにしましょう。

【 養育委託されるまでの情報について 】

大きくなると質問のほとんどの内容が生母さんについてのお話と 子供が委託されるまでの経緯についてのお話になります。こればかりは基になる情報がないと答えられません。そのため委託を受けるときにあらかじめ生母さんについての情報を可能な限り集めておきましょう。あるいは事情があってもどうしても情報が手に入らないときはできるだけ早い時期に子供が生まれた病院や預けられていた乳児院を直接訪れてください。状況を知る職員さんであれば鍵となる情報が必ず得られるはずです。

【 養子だということは 周囲に伝えるのか 】

子供だって自分の秘密を勝手に言いふらされたくありません。養子であるということを 関係ない人にことさら家庭の外で話す必要はありません。こどもには 『 ○○ちゃんがおうちにやってきたことはとっても素敵なこと。とっても嬉しいこと。とっても Happy なこと。だから家族だけの秘密にしようね 』 と お話して秘密にしておきます。

ただし重要な親族と 事情を知らないと困る人（幼稚園・学校）にだけは伝えておきます。どうしても話さないといけない状況もあります。小学校では 生い立ちの授業や 1/2 成人式があります。予期せぬカミングアウトにならないよう 学校の先生にはあらかじめ伝えておきます

【 生母さんについての情報 】

可能な限り生母さんについての情報を入手しておきましょう。将来子供から尋ねられた時に答えるのは養親さんになります。生母さんについての情報はできるだけ早い時期に入手しておきましょう。情報には様々な情報があります。良い情報もあれば 悪い情報もあります。親はすべての内容について知っておく必要がありますが 子供にはすべての内容を伝える必要は全くありません。親は年齢に応じて忖度して そして噛み砕いて伝えます。知ったままに伝える必要はまったくありません。年齢に応じて内容に応じて忖度してかまいません。ただし情報だけは必ず入手しておきます。情報を入手することと子供に伝えることは別の次元のことと考えてください。そして子供が真剣にすべての情報が欲しいと願った時にすべてを渡します。その時は支援者と一緒にお話してください。

【 子供の代理人として情報収集しておく 】

子供が養育委託された経緯について子供の代理人として情報収集しておきます。子供はいつが必ず自分が養育委託された理由について尋ねる日がやってきます。しかしほとんどの記録の保管期限は5年です。できるだけ早い時期に情報収集しておかないと記録が廃棄されてしまいます。子供にとってはすべての情報が必要な情報です。医療機関であれば子供の代理人として養親さんは診療録の開示請求ができます。しかし診療録の保管義務は5年なのでそれ以上経過している場合は記録が破棄されてしまいます。乳児院の記録については所轄の児童相談所に子供の代理人として養親さんは資料開示請求ができます。しかし資料の保管義務は5年なのでそれ以上経過すると廃棄されます。家庭裁判所の記録も同様です。

【 子供が生まれた場所について 】

子供が生まれた産婦人科施設や保護された施設に子供と一緒に訪れてみてください。看護師さんや保育士さんは子供のことが大好きです。子供が生まれてきたことについて肯定的に話をしてくれます。施設を見るだけでも構いません。必ず一度は訪れてみてください。そしてどんな病院だったのかどんな施設だったのか写真に撮っておきましょう。子供にはその時にはわからなくてもなんとなく感じるものがあります。その時の空気感 その時の風景 その時の職員さん これらが子供には必要なのです。これを写真に切り取っておいてください。あとで必ず必要になります。

【 ルーツと医学的観点 】

養子さんがサラセミアや血友病といった遺伝疾患に罹患することがあります。そのためどんな遺伝病が起こりうるのか 生活習慣病が起こりうるのか 癌家系なのか 成人病の傾向について親族を含めてあらかじめ情報を入手しておくことも必要です。これは養子さんの治療方針や生命予後に関わる重要な情報になります。またルーツを知っておくことは臓器移植をする際 重要な臓器提供者でもあり最終的な治療手段を確保することでもあると理解してください。

【 告知しないデメリット 】

こどもが迎えられた経緯についてお話（真実告知）しなかったら どんなデメリットがあるのでしょうか。これについては悲しいお話がたくさんあります。

昔は子供に養子であることを伝えない人がたくさんいました。なぜならお話しすること自体が認知されておらず さらにお話についてどのようにお話ししたらいいのか手本もなく支援もありません

んでした。その当時の親はすべて手探りでやっていました。ところが時代とともに 想定もしないカミングアウトが起こるようになりました。結婚 妊娠 血液型判定 DNA 検査 病気 遺伝病検査によって予期しない配慮されないカミングアウトが突然他人からされるようになりました。また結婚や死別の際に突然告知されたり判明したりしてその後子供との関係性が修復ができなくなってしまったり 親戚から漏れてしまったり 隠すことそのものに親が耐えられなくなりうつ病になってしまったりと たくさんの不幸がありました。これらのたくさんの不幸を経てやっと伝えることが浸透するようになりました。

また国外のどの論文を読んでも こどもが迎えられた経緯について お話（真実告知）をしなかったことによるデメリットしか報告がありません。お話してよかったという報告は無数にありますが お話しなくてよかったという報告は見つかりません。このように世界中のどの国でもお話することは定説（あるいは前提）になっています。必ずお話しするものと考えてください。でもどうしてもお話しするのが怖かったら遠慮なく支援者やカウンセラーさんに相談してください。一緒にどうするか考えましょう

それでもお話しするのがあまりにもためられる場合 自分の中に解消できていない心の傷（トラウマ）が生まれていることがあります。これからもずっと苦しむことになる心の傷です。この心の傷を解消するチャンスです。心の傷を癒す治療（トラウマケア）をしてゆきましょう。

【 コラム ある養子の話 】

私は〇〇〇〇年に出生した。生まれたのち特別養子縁組により現在の養親のもとに委託された。ある時期からは私は自分が養子だとうすうす感づいていた。なぜなら親の挙動があまりにも不自然だからである。特定の key word に極端に反応したり 極端に会話を遮ったりする。どうしてこれで気が付かないのか不思議なくらいである。しかもそれだけ極端なことをしていても親自身には自覚が全くないのである。そして私が全く気付いていないと思っているのである。

私が 2 回目の転職した〇〇歳の頃 『 自分のやりたいことが何なのか分からない 』『 本当にやりたいことが見つからない 』『 胸にぽっかりと穴の空いた空虚感が埋められず苦しい 』と感じるようになり 『 自分はいったい何者なのか 』『 自分はそもそも何のために存在しているのか 』『 自分はどこからやってきてどこへゆくのか 』といった疑問を持つようになった。そして今まで見て見ぬふりをして考えなかった自分のルーツという鍵を探してみようと思うようになった。しかしその時になってもまだ養親は私が養子であることに気が付いていると思っていなかった。ずっと隠し通せていたと思っていられない。